

AO 法骨折治療 Foot and Ankle 英語版 Web 付録付

Stefan Rammelt, Michael Swords,
Mandeep S Dhillon, Andrew K Sands・原著

田中 正・監訳

佐藤 徹・訳者代表

野田知之, 松村福広, 峰原宏昌,

宮本俊之, 松井健太郎・訳

評者 山口智志

(千葉大学大学院国際学術研究院准教授/
千葉大学大学院整形外科学)

一読した感想は、「今すぐ買うべし！」である。本書は、待望の足部・足関節骨折の手術治療に特化したテキストである。これから骨折治療を学ぶ後期研修医から指導医、足の外科の診療、研究に携わるエキスパートなど、経験によらずあらゆる整形外科医、外傷医にとって必携の書と断言できる。

足部・足関節骨折の手術は専門性が高く、治療法を学ぶ上でいくつかの問題がある。まず、足部・足関節は多くの関節から成る複合体である。例えば、足関節骨折とリスフラン関節骨折ではまったく異なる評価、治療戦略が必要である。しかし、ベテランの医師であっても全ての部位の骨折治療を経験することは容易ではない。経験がない骨折では、アプローチすらわからないことも少なくない。加えて、足部・足関節骨折の手術は決して簡単ではない。足関節果部骨折は、骨折手術の入門編として後期研修医が執刀することも多い。しかし、十分な整復が得られず短期間で変形性関節症に至る症例も少なからず存在する。

本書を手元に置いておくことで、われわれが臨床で抱えるこれらの問題は解決される。本書は、脛骨遠位部から趾骨骨折まで、比較的にまれな骨折を含めて全範囲の骨折を網羅している。どのような骨折に遭遇したときも、必ず治療のヒントになる情報を提供してくれる。また、膨大な症例とイラスト、X線画像、手術写真を用いて術前計画か

A4判・664頁
2023年5月
定価：28,600円
(本体26,000円+税)
ISBN978-4-260-05062-3
医学書院 刊



ら手術手技、術後管理まで一貫した形式で論じている。必要なときに素早く情報にアクセスすることができ、かつ理論と実践のギャップを埋める実用的なガイドとして非常に有用である。さらに本書は、現時点での治療のスタンダード、すなわち最良の治療を網羅している。例えば、踵骨骨折では拡大L字切開から足根洞アプローチ、経皮手術まで多様な術式を網羅しているため、足部・足関節を専門に治療する評者にとっても多くの学びがある。

術中に陥りやすいピットフォールとその回避方法、代替テクニックを詳細に解説しているのも、本書の特徴である。例えば、見落としがちな骨折面に嵌入した小骨片の対処法、整復困難例での次の一手などを具体的、明快地提示している。術後レントゲン写真を見て「こうすれば良かった……」と後悔し、眠れぬ夜を過ごすことは誰しも経験することである。本書を熟読することにより、偉大な先人の経験を自分のものとして手術に臨むことができる。

本書は、足部・足関節骨折管理の技術をまったく新しいレベルに引き上げてくれる。患者を助けるとともに、日々の治療に悩む医師の安眠を助ける名著である。評者も、整形外科医としてのキャリアの中で、今後も何十、何百回と本書を開くであろう。